糸のみち―染・織 リサーチプログラム

2014年12月6日 川越市 ／展覧会 12月3日～7日（川越市内3会場）

川越アート散歩　糸のみち染のみち　12月6日

川越市立美術館市民ギャラリーの藍染展「糸のみち染のみち・紺屋のあさって」をひと口であらわすと「これも藍、あれも藍、きっと藍」。**松永優さん**の作品は布に箔（はく）を貼って染め、また箔を貼っては染めるという「金銀箔藍染色」の技法によるタペストリー、とてつもない宇宙観や古代の雰囲気を感じます。**山田祐司さん**の薄い生地の藍染はパイナップルの繊維で織られた布を使った板締め染め、とても繊細で美しい作品です。**五十嵐純さん**の藍は引き算の藍染で、藍で染めた布を漂白しながら文様を描いていきます。**うだまさしさん**の藍染は木の器を染めたもので金属のような風合いがあり、ノミの目を残すことで木のあたたかさが感じられます。会場の市民ギャラリーでは五十嵐さんのインスタレーション、山田さんや松永さんの大きな作品が展示されていましたが、弁天横丁**ギャラリー・なんとうり**と**三番町ギャラリー**では大きな作品に加え、ショールや服、器などの展示販売をおこないました。藍染の軍手に人気が集まっていました。

このアート散歩では市民ギャラリーの展示を鑑賞したあとに**加藤忠正さん**を講師にお迎えして、まちなみの構成、伝統的な建造物や現代建築等について、それぞれの時代ごとにデザインがあることなどについての説明をうかがいつつ江戸・明治から大正へ、昭和から平成へとまちなみの変遷をたどりました。また、市民ギャラリーでは五十嵐さんのお話を、ギャラリー・なんとうりではうだまさしさんのお話を、三番町ギャラリーでは山田さんのお話をそれぞれうかがいました。

なお、「糸のみち染のみち・紺屋のあさって」展の最終日12月7日の夕刻には市民ギャラリーで、**野本翔平さん**と**村田峰紀さん**によるクロージングパフォーマンスがありました。

（参加：31人／展示場計200人）

※「羽生」「越生」「川越」とめぐった3つのアート散歩では、脈々とうけつがれてきた藍染の繁栄とその衰退を知るとともに、それをのりこえて新しい価値観を生みだし、未来へつなげようとする表現者たちに出会いました。そこには、たんに伝統の復活をめざすのではなく、これからの市民生活のなかに生きる場所を見つけようとする「アート」の取り組みを見ることができました。

草野律子（SMF協力委員）

「糸のみち 染めのみち・紺屋のあさって」展（川越市立美術館市民ギャラリー）

加藤忠正さん

ギャラリー・なんとうり

三番町ギャラリー

川口アート散歩　川口染織業の記憶をたどる「糸のみち」

2014年10月12日 ／11月2日 川口市・蕨市の各所

あなたとどこでもアート
小さな家プロジェクト

「ものづくりのまち」川口ではかつて、鋳物に継ぐ地場産業として染織業が盛んでした。その記憶の糸をたどる2つのバスツアーを川口市立アートギャラリーATLIAの秋の企画展〈川口の匠vol.4　麗のとき〉に関連して実施しました。

Part1. 染のみち―藍染の工房を訪ねる

10月12日　訪問先：西染色工房、阿波藍型染「紺定（こんさだ）」、江戸袋氷川神社

ATLIAで「川口の匠vol.4 麗のとき」を鑑賞

西耕三郎さん

西大三さん

田中昭夫さん

藍染めの実演

江戸袋の獅子舞

第一回目は地域を代表する染め師の**西耕三郎さん**を講師に、かつて藍染めが栄えていた地区を中心にめぐりました。

ATLIAで展覧会を鑑賞した後、まずは西さんの仕事場である「西染色工房」へ。独自の製法の糊をもちいる「江戸型染」の伝統技法を見学し、軽妙洒脱な西さんの解説に参加者はひきこまれているようすでした。また、息子の**西大三さん**の手ほどきのもと、シンプルな図形を自由に組み合わせる現代的な型染めの体験もおこないました。

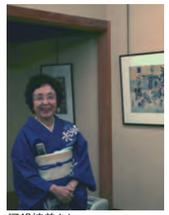
昼食後は市内に残る貴重な藍染工房「紺定」へ。主の**田中昭夫さん**が江戸時代から伝わる染色技法「長板中型」を一部実演し、緊張感あふれる動作のひとつひとつを参加者は息をつめて見つめました。染めの場面では、甕から引き上げた布の鮮やかな色の変化に歓声が上がりました。

最後は「江戸袋氷川神社」でおこなわれていた川口市指定無形民俗文化財「江戸袋の獅子舞」を見学しながら散歩の余韻を味わいました。匠の技術と精神にふれ、染めの世界にひたった一日でした。（参加：24人）

Part2. 織のみち-双子織のルーツを訪ねる

11月2日　訪問先：河鍋暁斎記念美術館（かわなべきょうさい）、蕨市立歴史民俗資料館（本館・分館）、塚越稲荷神社（機神社（はたがみ））、サイボー株式会社本社

「はたごっこ」のみなさんと機織り体験



河鍋楠美さん

佐藤直哉さん

吉田金造さん

蕨市立歴史民俗資料館分館

機神社

第二回目は川口織物業の隆盛をもたらした「双子織」をテーマに、その起源の一端と織物文化が伝わる蕨市を中心にめぐりました。

まずは「河鍋暁斎記念美術館」へ。館長の**河鍋楠美さん**による解説のもと、明治ごろに描かれた風刺画を鑑賞しました。暁斎が鋭い眼でとらえた当時の世相や粋な着物の文化などに参加者は見入っていました。

次に「蕨市立歴史民俗資料館」を訪ね、学芸員の**佐藤直哉さん**に蕨市の織物業の歴史を解説していただきました。江戸時代に五代目高橋新五郎が始めた機屋が国内での工場制手工業の先駆けといわれています。分館では織物の生産にたずさわっていた**吉田金造さん**の経験談をうかがいました。また、吉田さんと機織りの活動をしている「はたごっこ」のみなさんの手ほどきで、昔ながらの機織りも体験しました。

その後、五代目新五郎がまつられている「機神社」に参詣し、最後にかつて大規模な紡績工場を構えていた「サイボー株式会社」本社の写真資料を見学して、川口まで広がった織物業の歩みをふりかえりました。

一日を通して見えてきたのは、時代を読むたしかな眼を持ち、柔軟に対応してきた人びとの姿です。未来につながるヒントとして、地域の歴史文化を見直すことの重要性を再認識することができました。（参加：26人）

小野寺茜（SMF運営委員）